

SEISA Africa Asia Bridge

ち けい
知 環
アフリカを、アジアを知って、仲間と繋がる

2017



EXPLORE THE OTHER SIDE

Report



公益財団法人 世界こども財団
FGC—Foundation for Global Children

《はじめに》

私たちはどうして「SEISA Africa・Asia Bridge」を行うのでしょうか？

アフリカ。この言葉は誰もが知っていますが、単に砂漠やライオン、キリン、ゾウなどと結びつき、そこに3,000を超える言語や数多くの民族、宗教があることなど、まだまだ知らないことの多い大陸でした。ところが今やアフリカは、多くの天然資源を有し、めざましい発展を遂げ、多くの人々が注目する世界の中心ともいえる大陸へと変貌しています。その反面、環境破壊や狩猟により、ダマゲゼル、マンドリルなど、多くの動物が絶滅の危機にさらされています。この状況に対して、私たち日本人が、どのような姿勢で対峙していくのか、10年先、20年先の世界のあり方を考える上で、とても大切な時間にさしかかっているといえるからです。

これまでのSEISA Africa・Asia Bridgeでは、多くの国の方々と共に、アフリカの持つ多様性の素晴らしさ、そして可能性について語り合い、共感し合う機会となりました。そして多くの人々がこの場所に集い、関わり合い、互いを認め共感理解をすることで、私たちは新しい世界への扉を開き、架け橋を築くことができました。

今私たちが住む地球では、環境、貧困、人権、平和などの問題があります。私たちは、SEISA Africa・Asia Bridgeを、真の意味での共生とは何かを考える機会にしていきたいと思います。互いに理解し共感し合う強い連鎖がより強く持続し、次の世代を担う若者たちが自覚を持って考え、行動する礎になることを願っています。

来年、2019年、星槎発祥の地、ここ横浜で第7回アフリカ開発会議（TICAD VII）が開催され、その翌年の2020年には東京を中心とした各地でオリンピックも開催されます。こうしたまたとない機会を皆様と共に作り上げ、それらの経験をもとに、距離の遠さよりも心の近さを持つ若者たちが、日本においても、アフリカ、アジア、太平洋諸国においても、より多く育ち、様々な問題に対して何が必要かを考え、強い意識を持って、国づくりの仲間として関わり合っていくことを願っています。皆様のさらなるご理解ご協力をいただければ大変嬉しく思います。

SEISA Africa・Asia Bridge 2017 (通称 SAAB : サーブ)の紹介映像はコチラ👉

<https://youtu.be/TxsrzyOs6yA>





SEISA Africa・Asia Bridge 2017 公式 DATA

「7,247 人がアフリカ・アジア・日本、現在と未来の懸け橋になる」

11 月 11 日（土）、12 日（日）。両日ともお天気に恵まれ、テーマ「“知繋（ちけい）”＝知ること、繋がること」のもと、SEISA Africa・Asia Bridge 2017 を開催いたしました。アフリカ、アジア、太平洋の国々に対象に、参加国数は大使館が **24** カ国、その他 **10** 以上、日本を合わせると **35** カ国以上、総来場者数 **7,247** 名の皆様と共に、学びと関わり合いの輪を広げることができました。全国の生徒と近隣の皆様の協力による SAAB の学びは、より発展し、多くの方々にご称讃をいただきました。アフリカやアジアの国々と国連の掲げる SDGs についての生徒会議や、オリンピック・パラリンピアンをお招きし、それぞれのご経験や、スポーツを通じた世界との関わりをお話しいただいたこと、フィナーレのステージ会場では、1,000 人以上たちがハイタッチでひとつにつながるなど、皆様の心に残るシーンも多かったことと思います。引き続き、さらに多くの皆さんと共に SEISA Africa・Asia Bridge を作っていききたいと思います。

来場者数	第 1 日目 11/11（土）	第 2 日目 11/12（日）	合計
2017	3604 名	3643 名	7247 名
2016	2600 名	3200 名	5800 名
2015	4000 名		4000 名

参加国数	大使館関係	その他（日本含）	合計
2017	24 ヶ国（21 カ国）	14 カ国	35 カ国
2016	13 ヶ国	17 カ国	30 カ国
2015	9 カ国	8 カ国	17 カ国

参加大使館	(◎)…3 回連続参加 (○)…昨年から 2 回目 (●)…一昨年と 2 回目
アルジェリア(◎)・ウガンダ・エジプト(○)・エリトリア(◎)・ガーナ(○)・ジブチ(○)・ジンバブエ・スーダン(◎)・セネガル(◎)・チュニジア(●)・トーゴ・ナイジェリア(◎)・レソト(○)・マダガスカル・マラウイ(◎)・マリ・南アフリカ・モザンビーク(○)・モロッコ・フィジー・ミャンマー	
大使 7 および臨時大使 5（ベナン・コンゴ・リベリアは当日ご欠席も事前協力あり）	

参加国	参加された方の国籍（確認できたもののみ）
アルジェリア・ウガンダ・エジプト・エリトリア・ガーナ・ジブチ・ジンバブエ・スーダン・セネガル・チュニジア・トーゴ・ナイジェリア・レソト・マダガスカル・マラウイ・マリ・南アフリカ・モザンビーク・モロッコ・フィジー・ミャンマー・アメリカ・中国・台湾・韓国・ロシア・カメルーン・セネガル・インドネシア・ブータン・インド・フィリピン・ブラジル・日本	

主 催 公益財団法人 世界こども財団・学校法人国際学園

後 援 外務省・文部科学省・神奈川県・横浜市・横浜市国際局・大磯町・箱根町・
神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会・小田原市教育委員会・
大磯町教育委員会・独立行政法人国際協力機構（JICA）

《オープニングセレモニー》



大使や臨時大使ら、21 カ国のアフリカ・アジアの大使館にご参加いただきました。



恒例の打鼓音 Jr による景気づけの太鼓演奏



開催の挨拶をする世界子ども財団 宮澤保夫理事長



各国を代表してスピーチするエリトリア国エスティファノス駐日大使



外務省アフリカ第二課より 望月寿信地域調整官



独立行政法人国際協力機構（JICA）青年海外協力隊より
山本美香事務局長

「SEISA Student 宣言 2017」



全国の小中高生が集い、自分たちの将来のためにアクションプランを宣言しました。



宣言書は外務省、JICA、横浜市国際局の皆様到手渡されました。

「プレゼンテーション」



各国の代表者に日本との繋がりをお話いただきました。



全国の小中高生によるプレゼンテーション。様々な視点で世界との繋がり方を提案しました。

世界とつながるためのプレゼンテーション

SEISA Transnational Education Desing (sTED : ステッド) の映像はコチラ👉

<https://youtu.be/q6NAQzoqV4g>



卒業生も進学先の大学で携わっているアフリカ支援について提案しました。



sTED FINAL 審査発表の瞬間。努力が実り、感涙する生徒。

《知繋プロジェクト》



バングラディッシュのアグラサー孤児院の子どもたちと skype で繋がりました。



バングラディッシュと日本の子どもたちが「世界に一つだけの花」の合唱し、同じ時間を共有しました。

《各国紹介ブース》



FGC と関係の深いエリトリア大使館とブータン王国のブース



ブータン王国の大学生による民族衣装の体験コーナー

《音楽やスポーツの交流》



エリトリアからの留学生も積極的に交流しました。



本物に触れ、豊かさを知る機会がもりだくさん。

《オリパラ 夢トーク》



オリンピック未續選手(陸上)とパラリンピアン二條選手(車いすテニス)による世界との繋がりについてのトークショー



星槎国際湘南の本田投手(オリックス ドラフト 4 位指名)も、プロアスリートとしての姿勢について、質問していました。

《マルチエイジディスカッション》



幼稚園から中高年まで、世代ごとのグループに分かれて、“豊かさ”とは何かをディスカッションしました。



《ワークショップ》



小さな子どもから大人まで、同じ体験をすることで、笑顔も繋がりました。

《ハイタッチで繋がろうプロジェクト》



会場中の人たちが、異なる国籍・文化・宗教の垣根を越え、ハイタッチで繋がり、同じ時間を共有しました。

《フィナーレ》



熱気と歓喜の中、7,247名の仲間たちと共に、未来について本気で考える2日間がフィナーレを迎えました。

SEISA Africa・Asia Bridge 2018 は
2018年11月10日(土)・11日(日)に開催決定！